（２）竹島小学校

学校長　北代　大
校内研究代表者　明神　彩

１　研究主題

「自ら学び、思いや考えを伝え合うことのできる子どもの育成」
～話す・聞く活動を通して～

２　主題設定の理由

本校は、四万十川の下流に位置し、豊かな自然に恵まれるとともに、学校教育にかかわっても地域のあたたかい支援を受ける等、恵まれた環境にある。子ども達は学年を問わず仲が良く、素直で明るい。全校児童は６４名で、７学級編制（特別支援学級１学級を含む）の小規模校である。

一昨々年度より、研究主題を『主体的に問題解決に取り組み、対話を通して、深い学びへと向かう授業づくり』とし、算数科を研究教科とし、授業研究を中心に研究を進めてきた。問題解決の過程を重視した学習のスタイルのアウトラインを確立し、目指すべき授業の方向性についての共通理解が図られてきたことや、授業スタンダードにもとづく問題解決型の授業実践の拡大、各種学力調査結果における児童の学力状況の向上等の成果の一端も現れつつある。

また、基礎基本の徹底を図る取組として、漢字・計算・音読・ノート指導等について各学級の実態や取組状況について実践交流を行い、学校全体への取組へとつなげてきた。さらに、自ら考え行動し表現する力を高めるため、授業のみならず、発表朝会や委員会活動、行事等においても、子ども達が主体的に活動できる場を大切にしてきたことで、上級生を中心に自ら考え、行動したり、発言したりする姿が見られるようになっている。

しかし授業を中心とした発表の場では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現することや、話し手が伝えたいことを意識しながら聞くこと、また、話の内容が明確になるように、自分の考えをまとめて表現することが難しい。自分の意見に自信が持てず、声の大きさや態度を含め、豊かに表現するという点において指導が必要な現状がある。

こうした課題をふまえ、今年度は教育目標『たくましく未来を切り拓く児童の育成』のもと、確かな学力の育成に向け、研究教科を国語科、研究主題を『自ら学び、思いや考えを伝え合うことのできる子どもの育成～話す・聞く活動を通して～』とし、①基礎的・基本的な内容を確実に習得し、思考力・判断力・表現力を働かせながら学習すること　②話し手が伝えたいことと自分が聞く必要のあることの両面を意識しながら聞き、感想や考えを言葉で伝えること　③話の内容が明確になるように、構成を考えることを通して、自分の考えを形成すること　以上３点を軸に授業研究を継続し、研究テーマにアプローチしていく。さらに、そうした話す・聞く活動を重視した授業づくり・授業改善を通して、児童に求められる資質・能力の育成を目指す。

全教員が、目指す授業についての共有を図り、児童の学習意欲を高め、学びの価値及び児童が自身の向上を実感することのできる授業づくりを目指し研究を進めることで、児童一人一人の未来を切り拓いていく力につなげていきたい。

３　研究の進め方と方法

（１）研究仮説

自分の思いを持ち、構築、伝え合う活動を取り入れていく中で、自ら学び、思いや考えを伝え合う子どもが育ち、物事を多角的・多面的に捉え、自分の考えを明確に持ち、豊かに表現できるようになるだろう。

（２）研究組織

〇研修部会　学習部会（１年、２年、４年、５年、校長）
　　生活部会（３年、６年、あおぞら（教頭）、養護）

〇学年ブロック　低学年部会（１年、２年、養護）
　　中学年部会（３年、４年、あおぞら（教頭））
　　高学年部会（５年、６年、校長）

（３）授業研究

・国語科の授業研究（一人年間１回）

４　今年度の取組

（１）基礎学力をつける取組

・学習規律の徹底
　⇒話し方・聞き方、声のものさし、聞き取りノート（聞き方名人の選出）
・帯タイムの充実
　⇒新出漢字の指導の統一、辞書引き指導、ことばのきまり、下学年の復習
・実践交流
　⇒教科ノート交流、グッドノート選出（自主学習）、ICT 活用方法交流
・自己表現できる場の設定〈表現する力・考えながら聞く力をつける〉
　⇒授業展開（対話のある活動、振り返り）、生活朝会・発表朝会・音読朝会・行事後の感想
・家庭学習の充実
　⇒家庭学習チェックシート、家庭学習の手引き、自主学習ノート児童相互交流及び評価
・読書活動の充実
　⇒読書タイム、学年課題図書、各学年の読書目標、読み聞かせ、図書室整備

（２）授業改善

・研究テーマ・研究仮説に基づく日々の授業実践
・学習計画表の提示・児童との目標の共有
・主体的・対話的で深い学びについて授業像・児童像の共有を図る
・教材研究・授業研究の充実（国語科・講師招聘）
・授業チェックシートの活用（授業者用・児童用）
・外国語活動（ＡＬＴの活用・コミュニケーション能力の育成）
・授業における ICT（主にタブレット）の活用

（３）研究授業

教科	日	学年	単元・教材名
国語科	５月１８日	２年	ことばで絵をつたえよう
	６月　８日	４年	たしかめながら話を聞こう
	６月２２日	３年	メモを取りながら話を聞こう
	７月　６日	１年	みんなにはなそう
	１０月２６日	６年	話し合って考えを深めよう
	１１月１６日	５年	伝えたい、心に残る言葉

（４）防災教育の推進

・防災参観日の充実
・合同防災学習（保育所・地域・保護者）

（５）探究的活動に基づく総合的な学習の時間の実践
・体験学習を取り入れ、ふるさとを語り、ふるさとを誇れる児童の育成
・各教科と関連づけた防災学習
（６）道徳教育の推進
・道徳教育の全体計画及び、特別の教科道徳の指導計画の整備並びに計画に基づく確実な実践
・道徳参観日の充実
（７）人権教育の推進
・体験学習の重視　・講師招聘（心の教育参観日での講演会）　・障がいのある方々の理解教育
・学級集団づくり、学校集団づくり　・特別支援教育の推進、人権参観日、校内支援委員会の充実、ＳＣによるエンカウンター

５　今年度の成果（○）と課題（●）

○研究授業が進むに連れて、指導案をよりよいものに改善していったことで、授業を見る視点がはっきりしてきた。
○「話す・聞く」の単元での授業を繰り返し参観してきたことで、それぞれの学年の身に付ける資質、能力や系統性などを学ぶことができた。
○ブロック別の到達目標を定めたことで、年度末の児童の姿のイメージがもてた。系統性を意識したことで、６年間で付けたい力を見通すことができた。
○自主学習ノートの選出方法を月毎に変え、教職員で選んだり児童同士で選んだりしたことで、少しずつノートの内容がよくなった。また、廊下に掲示し、他学年のノートを自由に見ることができるようにしたことで、よいところを真似して、内容や書き方の工夫ができるようになってきた。
○人前で感想を発表する機会を意図的に増やしてきたことで、感想の内容が深くなり、語彙も増えた。
○発表の仕方や振り返りの書き方など、全校で統一した取り組みを行ったことで、全体の場での指導が行き届き、子どもの話し方・聞き方への意識が揃ってきた。
●「自ら学び、思いや考えを伝え合うことのできる子ども」を目指して、年度当初からどれだけ伸びたかの検証方法が確立できていないため、教師の感覚でしか変化を見取れなかった。
●研究主題に迫るため、明確な考えの伝え方や語彙を増やす方法を考え、身に付けさせたり、児童に自分の到達度を把握させたりする取り組みを行っていく。
●各ブロックの到達目標の達成の意識が弱かった。学級経営案に盛り込み、学期ごとの到達度を検証し、課題改善に向けて取り組むサイクルが今後の課題になる。
●「話す・聞く」単元の授業に取り組むのは初めてで、本時での児童の変容や全体で練り合い深めていく過程をどう仕組んでいくかに困った。
●国語科で学習したことを他の場面で活かしていく力が弱いので、学んだことを持続させていく指導の工夫が必要。

<音読朝会>

<発表朝会>

<生活朝会後の振り返り>